

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300578		
法人名	社会福祉法人栃の木会		
事業所名	社会福祉法人栃の木会 認知症老人グループホームうらら		
所在地	栃木県下都賀郡壬生町大字北小林812-1 (電話) 0282-86-8600		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年9月24日	評価確定日	平成20年10月8日

【情報提供票より】 (平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月6日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	8 人	常勤8人, 常勤換算8人	
	7 人	常勤7人, 常勤換算7人	
	7 人	常勤6人, 非常勤1人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	・光熱水費—20,000円、・レクリエーション費—実費 ・おむつ代—パッドタイプ 30円/1枚, フットタイプ 50円/1枚 パツタイプ 153円/1枚, はくパツ 180円/1枚	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成20年7月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	名	女性	27 名
要介護1	6 名	要介護2		5 名	
要介護3	14 名	要介護4		2 名	
要介護5	名	要支援2		名	
年齢	平均 82 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	独協医科大学病院、グリーンクリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雑木林に囲まれた広い敷地に3つのユニット(棟)が立ち並び、隣の棟に回覧を届けたり、調味料を借りたりと「近所づきあい」を意識した関係をつくっている。昨年度から今年度にかけては、家族懇談会を開催するようになり、「うららだより」を発行するようになったり、センター方式のアセスメント方式に取り組んだり具体的な改善を図っている。毎月開催する職員会議に副理事長も参加するなど、法人としてホームへのバックアップがあり、育児休暇や介護休暇の取得、職員の事情に応じた勤務体系の変更など、働きやすい職場環境づくりにも配慮されている。内部研修の年間計画を立てて計画的な学習の機会をつくっている。入居者と職員で一緒に宿泊旅行に出掛けたりもしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の後、運営推進会議や職員会議で検討するなどして地元地域の方にボランティアに来てもらうようになり、センター方式のアセスメントに取り組んだり、家族懇談会を開催して重度化・終末期の対応方針について改めて説明したりと具体的な改善を図っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、各棟ごとに実施した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 入居者、入居者家族、民生委員、協力医療機関の院長、町の職員に参加してもらい、ホームの活動状況などを報告し、意見をもらっている。医療保険からの訪問介護などのアドバイスをもらい、活かした例がある。会議には職員も交替で参加し、会議録を回覧して周知を図っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年に3~4回発行する「うらら新聞」に加えて、今年度から居室担当職員によるA6判サイズの「うららだより」を発行し、入居者の生活の様子や行事予定などを伝えている。昨年から家族懇談会を開催しており、これまでに2回実施している。預かり金は3か月ごとに台帳のコピーで報告し、必要な家族には随時報告している。重要事項説明書にホーム及び町、国保連、県運営適正化委員会の苦情・相談窓口を明記している。家族が訪れた際に意見・要望等を伺うようになり、家族懇談会の開催など、意見や要望などを言いやすい雰囲気づくりに努めている。苦情や要望があった時には話し合い、解決や実現に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自然豊かな半面、周りに民家の少ない環境であるが、ごみ捨てなどで地域の方に出会った時には挨拶をしたり、お茶に誘ったりしている。町の広報を見て、公民館の催しなどに出掛けたり、公民館祭りに入居者の作品を出品したりしている。町内の保育園との交流があり、運動会やお遊戯会に手作りのプレゼントを持って参加したり、園児がホームの隣の雑木林にカブトムシとりに来たりしている。町の社会福祉協議会にも協力してもらい、今年度から地元地域の方にボランティアに来てもらうようにした。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域の中で…」のやや長めのホームの理念のほか、各棟ごとに入居者と一緒につくった理念（大切にしたいこと）がある。棟ごとの理念は、董一「感謝の心を忘れずに いつも笑顔で暮らしましょう」、翠一「思いやりの心は感謝の心 暖かな笑顔で過ごしましょう」、茜一「挨拶で始まり挨拶で終わる 笑顔と心のゆとりをもって過ごしましょう」となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念は介護員室に掲示されており、朝礼時に唱和して共有を図っている。ホーム及び各棟ごとの理念はそれぞれの棟のリビングに掲示されていた。法人全体で入居者へのケアも含めた接遇の向上の取り組みをしており、月ごとに目標が定められている。今年度の内部研修計画では3月に理念を取り上げる予定になっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自然豊かな半面、周りに民家の少ない環境であるが、ごみ捨てなどで地域の方に会った時には挨拶をしたり、お茶に誘ったりしている。町の広報を見て、公民館の催しなどに出掛けたり、公民館祭りに入居者の作品を出品したりしている。町内の保育園との交流があり、運動会やお遊戯会に手作りのプレゼントを持って参加したり、園児がホームの隣の雑木林にカブトムシとりに来たりしている。町の社会福祉協議会にも協力してもらい、今年度から地元地域の方にボランティアに来てもらうようにした。	○	町の主催する高齢者の集まる機会で管理者が話をさせてもらった時に、ホームを知っている人が意外に少なかったという感想をもった。地元地域のボランティアとの交流や運営推進会議のメンバー構成を検討するなど、地域との交流を広げていきたいという姿勢で取り組みをしている。積極的に町の中に出掛けていくなど、今後もホームの周知に努めながら、ホーム理念でもある「地域での生活を支える」ための環境づくりに取り組んでいくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の後、運営推進会議や職員会議で検討するなどして地元地域の方にボランティアに来てもらうようにしたり、センター方式のアセスメントに取り組んだり、家族懇談会を開催して重度化・終末期の対応方針について改めて説明したりと具体的な改善を図っている。今回の自己評価は、各棟ごとに実施した。		

社会福祉法人栃の木会 認知症老人グループホームうらら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族、民生委員、協力医療機関の院長、町の職員に参加してもらい、ホームの活動状況などを報告し、意見をもらっている。医療保険からの訪問介護などのアドバイスももらい、活かした例がある。会議には職員も交替で参加し、会議録を回覧して周知を図っている。	○	11月の会議から入居者及び家族の参加者がそれぞれ2名ずつに増え、また地域の商店の方に参加してもらって調整もしている。今後も、入居者の生活を支えていくために関係を持っていきたい人や機関の参加も検討しながら、運営推進会議を活かして、地域に溶け込み、地域から気にかけてもらえるような関係を深めていくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加、報告・相談のほか町の主催する高齢者の集まる機会で管理者が話をさせてもらったり、うらら新聞を届けたりしている。地域包括支援センターは同法人で受託しているため連携が取りやすい関係になっている。	○	地域密着型サービスとして、今後も町にホームの取り組みや困っていることなどを積極的に伝えながら、サービスの質の向上や入居者の地域生活を支えていけるような環境づくりに共に取り組んでいける関係を深めていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に3～4回発行する「うらら新聞」に加えて、今年度から居室担当職員によるA6判サイズの「うららだより」を発行し、入居者の生活の様子や行事予定などを伝えていく。昨年からは家族懇談会を開催しており、これまでに2回実施、旅行の際のビデオ放映などもしている。預かり金は3か月ごとに台帳のコピーで報告し、必要な家族には随時報告している。「うらら新聞」で職員紹介をしているほか、各棟のリビングに職員のコメントつき写真を掲示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び町、国保連、県運営適正化委員会の苦情・相談窓口を明記している。以前は意見箱を置いていた。家族が訪れた際に意見・要望等を伺うようにしている。昨年からは家族懇談会を開催し、意見や要望などを言いやすい雰囲気づくりに努めている。苦情や要望があった時には話し合い、解決や実現に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年度から今年度にかけては3人の事業所間異動、1人の入職があった。管理者や各棟のリーダー等の異動はなかった。職員の交代がある時には周りの職員もカバーして入居者への影響を防ぐよう努めている。職員の交代については、以前入居者に影響がでたことがあり、今は当日話をしている。棟（ユニット間）の異動も行うが、日頃3棟間の行き来をすることで事業所全体としての馴染みの関係づくりにも配慮している。休暇の取得や勤務形態の変更など、管理者は法人と相談して働きやすい環境づくりをしている。		

社会福祉法人栃の木会 認知症老人グループホームうらら

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立てて内部研修を実施している。新任者用のマニュアルがあり、1か月に1回の評価を1年間行っている。認知症介護実践研修などの外部研修は法人、管理者、ケアマネジャー、リーダーなどで話し合っって順番に参加させている。外部研修を受講したときは、報告書を作成し、内部研修や職員会議の際に伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。認知症対応型事業所開設者研修などの実習を受け入れており、実習レポートで他事業所からの意見などももらっている。昨年、隣市に同法人のグループホームが開設した際には2週間ほどの研修を当ホームで実施した。	○	見学や実習などで他事業所からの来訪者は多いが、今後、当ホームの職員も他事業所を見学するなどして当ホームの良いところを再確認したり、他事業所の良いところを吸収するような取り組みにも期待したい。また、同法人内でグループホームができたことを活かして、今後一緒に勉強会などをしたりして共に質の向上に取り組んでいくことにも期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	待機者もいることから、空室ができて10日程度で新しい方が入居することが多い。入居前には事前に訪問したり、ホームに来てもらい、また食事やレクリエーションを一緒にする「1日体験」をしてもらったりしている。入居当初は状況に応じて家族と連携したり、慣れるまでは居室に目印をしたり、声かけや誘導に配慮したりして徐々に馴染めるように配慮している。今年度は本人・家族と話し合いながら、入居者のユニット間の引っ越しも行った。	○	ユニット間の引っ越しをするにあたっては、1か月ぐらい前から家族と話をして了解をもらったり、本人の気持ちを確認したりしているが、本人には前日に知らせている。入居や引っ越しにあたって、例えば共用型のデイサービスを組み合わせるなど、本人の納得感や心の準備などにより配慮した支援策を検討してみることに期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や後片付け、掃除、洗濯など、入居者のできることや気持ちに配慮しながら無理のない範囲で一緒に行っている。また、できない・やりたくないことには別の役割をつくる配慮もしている。職員からは、入居者に料理の味つけを教わったり、子育ての相談をしたり、入居者に元気づけてもらったりといった話が聞かれた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で希望や思いをくみ取るように努め、介護計画書にも話し言葉で希望が記入されていた。入居者の昔のことを知ったりするために、アンケートを行うなどの工夫もしている。今年度からセンター方式のアセスメントに取り組みはじめ、家族懇談会で説明し、家族からも協力を得ている。	○	センター方式に取り組み始めたところで、収集した情報を介護計画や具体的な支援にどのように落とししていくかというところを今後の課題と捉えている。家族や職員、関係者とも相談しながら、更に本人らしい生活を支えていくことに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月すべての入居者についてサービス担当者会議を持ち、家族に参加してもらうこともある。居室担当制を取り入れており、サービス担当者会議に参加が難しい時には前もって意見を書いてもらっている。医師の指示などがある時には反映させている。日常的な変更点等については、申し送りノートを活用するなどして伝えもれがないようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月ごとに計画を見直すこととしており、3か月ごとにモニタリングを行い、また毎月サービス担当者会議を行うなど細やかに検討を行っている。今年度は入居者の棟間の引っ越しをしたことから、新しい生活の様子を見た上で計画の見直しを行った。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の要望に応じて買い物に出掛けたり、近くのファミリーレストランにお茶を飲みに行ったり、隣の棟に留守をお願いしてドライブに出掛けたりと柔軟な支援に努めている。また、ヘルパー・家政婦協会や日常生活自立支援事業（あすてらす）の利用など、希望や状況に応じて他機関の利用支援もしている。		

社会福祉法人栃の木会 認知症老人グループホームうらら

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>3分の2ぐらいの方は従来からのかかりつけ医を受診している。通院は家族が対応することとなっており、ホームからは既往歴や生活の状況などをまとめた「報告書」を提供するなどして適切な医療が受けられるように配慮している。協力医療機関の院長は運営推進会議に参加してくれ、また24時間連絡が取れるようになっている。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>自立生活が困難になった場合や医療的な処置が常時必要になった時の対応が難しいということを昨年からはじめた家族懇談会で改めて説明をした。退居となる時には、職員も家族と一緒に転出先を見学するなどの配慮をしている。適切な転居先が見つかるまではホームで対応することとしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>法人全体として接遇向上委員会を設けている。職員の胸元には「親切係」のワッペンが貼られている。接遇向上委員会では毎月目標を定め、評価を行っている。職員は入居者の耳元で話をするなど、丁寧な接し方をしていた。個人記録等は介護員室で適切に管理されている。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>例えば、食事の時間帯に3時間程度の幅があり、実際に9時すぎに朝食を摂る方がいたり、オリンピックの期間中は遅くまで起きていたり、朝食では米飯、おかゆ、パンが選べるようになっていたり一人ひとりのペースや希望にそった支援に努めている。</p>		

社会福祉法人栃の木会 認知症老人グループホームうらら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	従前は法人の管理栄養士に献立を作ってもらっていたが、より入居者の好みや習慣に合わせた食を提供したいということから、管理栄養士に相談しながらホームでメニューを作るようになった。食事づくりや配膳、片付けなどは入居者のできることに配慮し、また当番制を取り入れるなどして職員と一緒にしている。職員は1名が同じものを一緒に食し、その他の職員は一緒に弁当を食したり、交替で食事をとったりしている。	○	食事中はテレビを消して静かな音楽を流し、会話を楽しんでいる。運営者とも相談しながら、グループホームという特性を活かして更に入居者と一緒に同じものを食すということについて、前向きに検討していくことに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	少なくとも1日おきに入浴してもらえるよう支援している。毎日入浴する方もいる。夜間に入浴する方もおり、眠れない時に足浴をしたりということもある。ゆず湯や菖蒲湯、頂き物のバラの花びらを浮かべたりと季節感なども考慮して楽しい入浴になるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・配膳・片付け、メニュー書き、洗濯物干し・たたみ、掃除、障子張り、植物への水やり、手芸、読書、歌などの場面づくりや支援をしている。書道、押し花などのクラブ活動も設けている。ほうきやモップがさり気なく置いてあった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地が広く、手入れされた草花や観音像などもあり、気候・天気良ければ毎日のように戸外に出る機会を設けている。希望にそって入居者と職員1対1での買い物や外出、ファミリーレストランにお茶のみに出掛けたり、近場にドライブに出掛けたりもしている。月に1回は行事的な外出の機会を設けており、1泊旅行などにも出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は見守りや夜間の巡視などで入居者の安全を確認しており、日中は玄関に鍵をかけていない。居室の掃き出し窓は地面からやや高い位置にあるが、ベランダを伝って自由に出入りできるつくりになっている。入居があったときには、職員と一緒に地域の交番に出かけ、なにかあった時のお願いをしている。		

社会福祉法人栃の木会 認知症老人グループホームうらら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する同法人の老人保健施設、特別養護老人ホームと合同で、夜間の通報訓練も含めて年5回の定期訓練が実施されている。地域への協力依頼は今のところしていない。	○	同法人の施設が隣接していること、近くに民家が少ないという立地特性はあるが、地域の方から気にしてもらえる関係をつくるという意味でも運営推進会議などを通して地域の方々に働きかけていくことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は好みや栄養バランスに配慮しつつ法人の管理栄養士と相談してつくっている。食事摂取量を確認、記録し、水分摂取量も必要な方については記録をしている。また月1回体重測定を行っているが、医師からの指示がある方は毎日測定している。またカロリーに制限のある方の食するものについては、そのつど管理栄養士に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外観・内装ともに木調の造りになっており、設備や調度などは家庭で使われるようなものを多く取り入れている。共用空間には花や季節に応じた手作りの壁飾り、入居者の作品などが飾られていた。日差しはよしずやロールカーテンで遮っていた。テレビや音楽、職員の声など気になるような大きさの音はなかった。窓の開け閉めで換気しており、空気のおよみや気になるにおい等もなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物などを持ってきてもらうよう話しており、棚、イス、テーブル、ソファ、仏壇、テレビ、冷蔵庫などを持ち込まれ、それぞれに違った表情の居室になっていた。持ち込む物の多い少ないはあるが、ほうきがさり気なくおいてあるなど生活感のある居室づくりがされていた。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。